



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより No. 8
平成30年11月21日

温かい気持ち

校長 竹内 康裕

知人から先日聞いた話です。小学校1年生くらいの男の子が横断歩道に勢いよく飛び出し、そこに走ってきた自動車が急停車、あわや、という内容でした。幸い事故には至らず周囲と当事者たちが肝をつぶしただけで済みましたが、飛び出したその小学生に運転手が車内から怒りの言葉をぶつけていたというその後を聞いて、強い違和感を覚えました。確かに飛び出しは危険な行為です。しかし運転者の方はどうだったのでしょうか。小学校の1年生くらいの子供は、夢中になると周りが全く視野に入らないことがあります。黄色い帽子やランドセルの目立つカバーは周りに気づいてもらうためです。もともと信号機のない横断歩道に人がいる場合は、車は必ず停止して歩行者の横断を妨げてはいけません。児童の飛び出しに対するドライバーの驚きや恐怖、その直後の安堵というアンバランスも理解できないわけではありませんが、それを怒りとして表現するのは、どのような状況であっても間違っていると思います。

幼稚園・保育園児や小学1年生の行動は時に驚くほど突発的で直線的で、それは人間の発達段階の上での特性でもあります。そもそも大人のような常に落ち着いた行動などはできません。小学生を対象にした交通安全教室では、「横断歩道を渡りましょう。右を見て、左を見て、もう一度右を見て、車が来なければ、手をあげて渡りましょう」というように教えます。「法律では、横断歩道では自動車は止まらなければなりません。ですからみなさんは渡っても大丈夫です。」とは絶対に教えません。車が優先であるかのような印象を受けますが、幼い大切な命を守るためには仕方のない指導です。法律を知っているはずの先ほどの大人のドライバーが、子どもの命を守るための止むを得ない指導を、自分が中心であると思い込み、「歩行者は車が危ないから止まるべきだ」と、運転者第一という考えになっていたのであれば、そしてそれを怒りで表現したのなら、非常に愚かで残念です。

本校では毎朝、8時から約10分間、生徒会本部役員や各学年の学級代表委員そして教員が校門で挨拶運動を行っています。校門前の道路は朝の通勤時間帯と重なり、たくさんの自動車が通ります。立地上、全ての生徒が横断歩道を渡って登校しますが、車が通りすぎるのを手前できちんと待つことができる本校生徒の意識の高さ、心の余裕には（手前味噌ですが）いつも感心させられます。また、地域の方や心あるドライバーの方々も横断歩道の手前で車を止め、「どうぞ」の合図を車内から送っていただけることに、法律上の「一時停止義務」とは別の次元で、とても温かい思いやり、優しさをいただいています。

「車は一時停止をしなければならない」という法律を歩行者が頑なまでに主張し、我が物顔で横断したり、「歩行者はしっかり確認して、安全に渡る」という命を守るための心得を運転者が取り違え、車という強い力で押し通ったりしたら、そしてそのような風潮が他の様々なことにも広がっていったら、世の中はどんなに住みにくくなるのでしょうか。

『利己より利他』をここでも主張します。何についてもお互いを思いやる気持ちとその実践が大切です。義務や権利を学び実践することは大切です。その上でそれらも包み込むような思いやりの気持ちは、私たち人類の宝物だと思います。今朝も生徒に車内から「どうぞ」の合図を送っていただく運転手さんに感謝をしつつ、温かい気持ちで挨拶運動が続きます。気持ちの良いあいさつをする生徒達と横断のために譲っていただいた運転手さんの今日一日が幸せでありますように。

■□ 部活動の記録 ■□

【男子バスケットボール部】

夏季大会後にオフェンスを一から練り直しました。

新人大会では、二回の延長戦による激戦となりましたが惜しくも勝利を逃しました。しかし、チーム一丸となって戦うことができました。この試合をきっかけにチームとしての絆が深まり、また一つ成長できたと感じています。

- (1)第6 1回府中市市民大会 4位
○33-23 府中四中
○33-30 府中三中
●34-40 府中八中
三位決定戦
●29-60 府中七中
- (2)第9ブロック 新人大会 2回戦敗退
○105-18 三鷹三中
●58-59 府中八中

【女子バスケットボール部】

新チームになり人数も少なく様々な予定で全員そろうことも少ない中、頑張っています。

- (1)第6 1回府中市市民大会 3位
(2)第9ブロック 新人大会 2回戦敗退

【剣道部】

1本は取れなかったものの、積極的に攻めていた姿勢が良かったです。

- (1)第8・9・10・11 合同ブロック中学校秋季剣道大会

◇団体戦

女子は明星中との合同チームとして出場。1回戦で吉祥女子中と対戦して敗退。

【サッカー部】

新人戦はけが人や人数が少ないながらも、チームワークで最後まであきらめずに全力でプレーしました。練習も創意工夫をしながらまずは個の力をつける練習に取り組んでいます。

- (1)第9支部サッカー新人大会

○5-1 聖徳学園、 ●0-5 調布五中、 ●1-2 武蔵野六中、 ●0-6 調布八中

【女子バレーボール部】

新チームとなって初の公式戦でしたが、よく頑張りました。やはり都大会の壁は厚かったです。

- (1)第9ブロック 新人大会 ベスト8入賞

| 1日目 1位通過 | 2日目 1位通過 | 決勝 |
|-----------|-----------|-----------|
| ○2-0 成蹊中 | ○2-0 三鷹一中 | ●0-2 府中四中 |
| ○2-0 三鷹中等 | ○2-0 府中二中 | ●0-2 法政中 |
| ○2-0 府中九中 | ○2-1 府中九中 | ●1-2 狛江二中 |

【アート部】

部誌を発行しました。また、3年生は府中市のケヤキ並木の美化保存ポスターを、1・2年生は校内作品展示会の作品を作っています。



【吹奏楽部】

地域ふれあい音楽会や連合音楽会に参加し、演奏をしました。
演奏曲：「パイレーツ・オブ・カリビアン」「風になりたい」
「踊るポンポコリン」「学園天国」



■□作文・ポスター入賞■□

◎武蔵府中間税会の標語

- 3-2 岩本 遙くん (佳作)
「税あって 明日があって 未来ある」
3-3 打田 咲愛さん (佳作)
「我が国の 未来がかかる 消費税」
*全国間税会総連合会入選にも選出されました。



◎夏のボランティア体験作文

- 1-2 塚田 怜佳さん (入選)
「楽しかった「は～もにい」のボランティア

- ◎府中市小・中学生の人権作文発表会
3-3 山本 晴菜さん (優秀賞)
「個性」

日時：12/2 (日) 13:30～
会場：府中の森芸術劇場ふるさとホール

□ 第26回 地域ふれあい音楽会 ■□

10月13日(土)に本校の体育館で、十地区青少対主催の地域ふれあい音楽会が行われました。五小・七小・本宿小の児童、府中西高校の生徒と十中生が集まり、合唱や吹奏楽、太鼓の演奏を披露しました。各校とても素敵な演奏で素晴らしい音楽会となりました。違う年代の児童・生徒が、一緒に音楽を楽しむことで、あこがれの気持ちや夢を抱いた貴重な機会になりました。



■□ 生徒会活動 ■□

10月15日(月)には生徒会認証式が行われました。後期からは、2年生が生徒会役員、委員会の中心となります。3年生はこれまでに生徒会活動、行事、日常生活など様々な場面で活躍してきました。「誇れる上級生」として成長してきた3年生の姿を見て、「学ぶ下級生」は道標にして努力をしていきます。



新しいリーダーを中心に“明るいあいさつ”“きれいな学校”十中の伝統をさらに素晴らしいものに築き上げていくことを期待します。

特別講演会のご案内



オリンピック・パラリンピック教育の一環として、筑波大学客員教授江上いずみ様をお招きし、「グローバルマナーとおもてなしの心」をテーマに講演会を実施します。

元 JAL 客室乗務員として30年間にわたり国内線・国際線に乗務した経験をもとに、2020年以降の国際社会を見据えた「おもてなしの心」を伝えています。ぜひ、保護者、地域の皆様のご参加をお待ちしております。

1 日 時 平成30年12月3日(月) 13:30~15:00 (90分の講演)

2 会 場 本校体育館

3 主な講演内容

- ①日本の文化「おもてなしの心」とは何か
- ②オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアの必要性和実態、2020年のボランティアとして望まれること
- ③おもてなしの心を表すときに大切な「好感度を高める5原則」
- ④「おもてなしの心」の表し方は一律ではなく、相手によって変わるものであること
- ⑤言葉がけの大切さとコミュニケーション能力を高める方法
- ⑥グローバルマナーとしての挨拶、握手

広報「ふちゅう」ー「地域貢献プロジェクト委員会」の活動が紹介されましたー



その行動も協働です！ 十中生が野菜を 育てて地域貢献

十中の特別委員会「地域貢献プロジェクト委員会」は、平成24年度に東日本大震災の復興支援を目的に発足しました。平成28年度からは地域貢献を目的に活動しており、今年度は23人の生徒が所属しています。

畑を借りた松本さんに農業指導をしていただき、4・5月に枝豆・キュウリ・インゲンなどの野菜の種まき、苗の植え付けをし、風よけや寒さ対策のネット張りも、生徒自らが行いました。生徒達が丹精を込めて栽培した野菜は、6・7月に収穫の時期を迎え、授業開始前の朝早い



▲丁寧に苗を植えました

▶十中生が寄贈した遊具で
楽しく遊びます

時間に畑に行き、大切に摘み取りました。収穫した野菜は、重さを量り、均等に袋詰めし、畑近くの直売所や西府文化センターの地域まつりなどで地域の皆さんに販売しました。

野菜を販売して得た収益金で、9月から12月に、西府文化センターには子ども用の知育遊具、風仙寮には介護用品などを寄贈し、地域の皆さんの生活に役立てています。

私たちが協働しました！

■十中生

「野菜の種まき・植え付け、収穫、販売を経験し、普段の学校生活では体験できない、野菜を育てることの大変さを知ることができました。直売所での販売を通して、地域の方々に感謝してもらえ喜びを知りました」と、3年生で委員長の高橋映耶さん。



▲左から印南君、松本さん、高橋さん

「みんなで集めたお金が地域のためになっていると思うと、すごくやりがいを感じます。野菜を育てて、お金を集められるのは、松本さんのおかげなので、とても感謝しています」と、3年生で副委員長の印南智樹君は話してくれました。

■松本良幸さん(西府町在住)

農業指導をした松本さんは「この活動を通して、中学生でも社会の役に立っているという喜びを感じてもらいたいと思っています。直売所はPTAの方、料金箱は近所の鉄工所が作ってくれました。私一人ではなく、地域の方々の協力でこの活動ができています」と話してくれました。



各ページのEマークは、「ふちゅうカレッジ100」の対象事業

「広報ふちゅう」は再生紙を使用しています